

We support the

希望の ひかり 第66回

ILC（国際リニアコライダー）計画の各種
最新情報をお届けします

4月に、ブラックホールが初めて撮影されたと発表され、全世界に衝撃が走りました。ブラックホールとは、非常に大量の物質が極限まで狭い領域に押し込められた天体です。重力が大変強く、光さえも抜

け出すことができないと言われ、これまでその姿を捉えることはできませんでした。

ブラックホールの研究は、観測的に宇宙の謎に迫る研究です。一方、ILCで行われる研究は、実験的に宇宙の謎



© EHT Collaboration

EHTで撮影された巨大ブラックホールとその影

に迫る研究です。その研究成果は、私たちの科学への興味や関心を引き付け、特に将来を担う子どもたちの好奇心を高めることが期待されます。ブラックホールを撮影した国際研究チームには、国立天文台水沢VLBI観測所

の研究者も参加しており、非常に身近なところで世界的な研究が行われていました。宇宙の謎に迫るという点で、ILCとの共通点があることから、今回の希望のひかりでは、ブラックホールの撮影成功についてご紹介します。

ブラックホールの初撮影

日本などの国際研究チームは4月10日、世界各国で同時に記者発表を行い、銀河の中心にあるブラックホールの撮影に初めて成功したと発表しました。ブラックホールの存在を目に見える形で姿を捉えたことは、世界で初めての快挙です。

イベント・ホライズン・テレスコープ

EHT（イベント・ホライズン・テレスコープ）は、世界の天文台が協力して地球サイズに相当する電波望遠鏡を構成し、ブラックホールの輪郭の撮影を目指した国際協力プロジェクトです。ヨーロッパ、アジア、アフリカ、北米、南米の70以上の研究機関と、およそ2000人の研究者で構

成されています。日本の研究機関や研究者もEHTプロジェクトに参加しており、日本チームの代表は、国立天文台水沢VLBI観測所の所長を務める本間希樹教授です。

日本チームには、国立天文台水沢VLBI観測所から本間所長のほかにも研究者が参加しており、観測デー



小沢市長に奥州市や子どもたちへの思いを語る本間所長

タの画像解析においても大きな役割を果たしました。

小沢市長が表敬訪問 本間所長の談話

小沢市長は、ブラックホールの撮影成功を受け、4月17日に国立天文台水沢VLBI研究所を表敬訪問しました。談話の中で、本間所長は、「120年前に緯度観測所ができたときも、世界の観測所と同じ星を観測する国際プロジェクトだった。今回と方法

は違うが、世界中の研究者が協力して一つのことをしている。この地が世界とつながっている、最先端の研究をしている、そういう場所であることを皆さんには知ってもらいたい」と話し、「宇宙や自然は謎に満ちている。子どもたちが興味を持って、何かやってみようという子が出てくれるとうれしい」と、まだ見ぬ将来の研究者たちにエールを送りました。



奥州前沢春まつり

お物見公園の桜が満開となる中、奥州前沢春まつりが4月21日に開かれました。厄年連が情熱あふれる演舞で祭りを盛り上げたほか、地元団体などがさまざまなパフォーマンスを披露。前沢のまちに本格的な春と笑顔呼び込みました。

1 7年前と変わらぬ演舞を披露した前沢49歳厄年連「風雅なこみどりかい」 2 前沢42歳厄年連「七午未彩会」は華麗な花火になぞらえた創作演舞で祭りを彩った 3 躍動感溢れるジャンプを見せる前沢25歳厄年連「蒼翔蘭」 4 詰め掛けた保護者たちの前でかわいらしい鳴子踊りを披露した幼児連 5 前沢小学校の4年生は元気いっぱいソーラン節を踊り切った 6 新たな作詞を加え、地元歌手の生歌で開催された前沢音頭大パレード 7 「平成音頭」で出演した三日町組の山車には新旧の元号が描かれていた

